

入学直後の良いスタートを支援する

～ つまずきを防止するために ～

チーム: ハッスル・キャッスル

札幌学院大学 伊原珠希
東京薬科大学 石崎 琢也
愛知大学 藤井 雄一郎
京都産業大学 岡 和寛
熊本学園大学 野田 美喜子
シスコシステムズ 櫻井 豊

理想像

学びや人間関係構築に自発的に取り組み、
大学生活を楽しむために良いスタートを切らせる



支援体制を作る



背景

最初は誰しも、高モチベーション、低スキル
スタート時は、やや手とり足とりが必要

最初から低モチベーションの新入生も一部ある
不本意入学者の早期発見が必要

最悪なのは、勉強も面白くない、友達もいない
学校に来なくなり、やがて中退

理想像に近づくために

(1)モチベーションを高める

- 案内資料を配布することで、入学前に大学のメッセージを理解し、大学生としての自覚とモチベーションを高める



理想像に近づくために

(2)不安要素を除く

- 新入生を支援する団体を先輩チームで組織し、大学生活の不安を解消する
- 専門家によるアドバイスによって、一人暮らしの不安を解消する
- 大学で受けられる支援サービスを理解することで、大学生活の不安を解消する

理想像に近づくために

(3) 大学生生活をより充実させる

- サークル活動や学内イベントを理解してもらう
- 他の学生がどんな活動をしているか知ってもらう



理想像に近づくために

(4)大学の学びを知る

- 授業内容とその目的を理解することで、大学の学びを知ってもらう
- 自分に必要な情報の集め方を習得することで、大学の学びを知ってもらう
- 大学生としての勉強の仕方(レポートの書き方等)を身につけることで、大学の学びを知ってもらう

理想像に近づくために

(5) 友達を作る機会を向上する

- コミュニティ形成の場を複数チャネル整備する
- 少人数講義を設置する



理想像に近づくために

(6) 不満の早期解消

- 学生の指導履歴を共有することで、学生指導をきめ細やかにする
- 欠席しがちな学生を早期発見することで、つまづいている学生を個別指導する
- 勉強に関する悩み相談窓口を設置することで、授業から取り残されている学生を早期発見する

理想像に近づくために

(7) 自分の将来像をもつ

- 4年間の学習と生活のモデルを提示することで、イメージを描いてもらう
- 学生に目的や計画を書かせることで、定期的な振り返りを可能にする
- キャリア相談窓口や面談機会を設けることで、意欲を向上させる



実現案1

- 新入生を支援するコミュニティツールを導入
 - 先輩が中心の支援チームを結成
 - 支援チームが実際に待機している場所と時間帯の確保(リアルでの支援を主軸)
 - 学内にクローズしたSNSを設置し、リアルを補完
 - 教職員もバックアップとしてSNSに参加
 - SNS化することで、参加者同士の支援も期待できる
 - SNSの運用管理は大学側(職員など)
 - 支援員の研修を用意することで事故を防ぐ

実現案2

- 学びのポートフォリオ管理システムを導入
 - ゼミ担当など、限られた先生に公開・継承
 - 事務職員との連携・共有方法は要検討
 - 学生が自分の学習履歴など、限られた範囲を閲覧できるようにするなどの工夫も行なう
 - 蓄積されたデータを、将来はマイニング処理することでパターン管理ができるようにする
 - 個人情報取り扱いに注意する

目標と評価方法

- 新入生支援コミュニティツール
 - ありがとうボタンで、ポジティブ評価を集める
 - アンケートで、ネガティブ評価、あるいは使用しなかった人の声を拾い上げる
- 学びのポートフォリオ管理システム
 - 出欠フォロー管理の自動化
 - 初回欠席、続けて2回欠席などきっかけを設定
 - フォロー担当者に自動通知
 - 欠席数の変化で評価
 - 相談先の種別と回数管理
 - 自発的に相談に行っていることを検知
 - 偏った相談窓口で極端に何度も行っているなどを検知
 - 行っていないことを検知(問題がない?、逆に問題が大きい?)
 - ありがとうボタンのゲット数
 - 自発的に、仲間に手を差し伸べているかどうかを計る
 - (コミュニティツールとリンクして、あくまでもポートフォリオ管理として計測)



ありがとう

まとめ

リアルとバーチャルをバランスよく併用した
支援システムを提供することで、
大学生生活の幸先良いスタートを切ってもらおう。



その結果、高い意欲を持ち、
自発的に大学生生活に取り組む学生となる。